



 福岡銀行

回転機を製造して八十年。  
高品質な回転機作りを通じ、  
社会に貢献する。

八幡電機精工株式会社

代表取締役社長  
菊竹 浩和 氏

取引店／福岡銀行 黒崎支店

#### ■会社概要

設立:1941年／所在地:北九州市八幡西区／  
資本金:1億円／従業員:166名／事業内容:電気  
機械器具製造／グループ企業:BMテック株式会社

会社ホームページは  
こちらからどうぞ!





本社前(左から菊竹社長、柴戸頭取)

## 安川電機の協力工場として 独自の存在感を発揮

当社は1941年、創業者の菊竹保雄やすおが、地元大手企業の株式会社安川電機の製造する電気機器部品の下請け加工を目的として、北九州市八幡西区築地町で産声を上げ、今年で創立80周年を迎えました。戦後の1953年に、VSモータ(小型軽量の交流可変速電動機)の製造を開始し、そこから「完成品を製作する協力工場」という独自の地位を確立してまいりました。その後、VSモータの本格的な生産のために1968年に現在地の本城に全面移転。当時のわが国は高度経済成長期真っ只中で、「安川のVS」は優れた産業用可変速モータとして一世を風靡し、受注が殺到して生産が追いつかず、お客様に納品を待っていただくほどであったと聞いています。

の自動化機械、養殖漁業のための魚体選別機など、さまざまな装置製品の開発に力を注ぎました。

## 大量生産から脱却し 品質と納期にこだわる

倉平が病床に倒れ、次期社長として安川グループから招聘した四代目の池田照久いけだてるひさは、これまでVSモータの製造で続けてきたメーカー主体の「大量生産」から脱却し、お客様目線での合理的な生産体制へのシフトを目指しました。

私が五代目社長としてバトンを受け継いだのは16年前。バブル経済崩壊後の景気低迷やリーマンショックによる金融危機といった数々の逆風に晒され続けながらの船出となりましたが、先代の教えを受け継ぐ経営に乗り出しました。

当社の主軸事業として、あらゆる種類の高品質な回転機を製造していますが、日本の各産業界にとって、回転機はまさに縁の下の力持ち。目立つ存在ではないものの、回転機にトラブルがあれば、工場の製造ラインは停止し、コンベヤやクレーンが動かなくなると物流に支障をきたす、といった事態が起こります。当社の製品は社会を支える重要な存在なのです。





菊竹社長

しかしながら、現在ではローコストの海外製品が数多く市場に出回っている状況があります。そこで私は、大量生産からの脱却を推進した池田からの方針を受け継ぎ、海外製品では実現できない「一品一様」に会社存続の道を見出して、当社の強みにすることを目指しました。さらには、当社のモノづくりの精神を打ち出すために「品質と納期を守る」という目標も同時に掲げました。

多品種少量のモノづくりは決して容易な事業ではありません。お客様の品質要件を求めなく的確に製品に注ぎ込み、短納期で仕上げていくのは至難の業です。しかし、そこが当社の存在意義。回転機作りを社会性の高い重要な使命と捉えて、改革を進めることにしたのです。

## 人間尊重の精神に基づいたモノづくり体制の構築

新たなモノづくりの構築は険しい道のりとなりましたが、私が重点的に取り組んだのは、従業員全員の意識改革でした。

当社の社是は、1968年に現在の本城工場に本社を移管した際に、三代目の倉平が自身の思いを明文化する形で制定されたもので、第一文に「人間尊重」を掲げています。2016年に当社が75周年を迎えるにあたって、従来の社是を継承しつつも時代に即した新しい指針が必要であると考えた結果、経営理念を制定したのですが、そこにも「人間尊重」の精神に基づいた高品質な製品作りを謳っています。

人間尊重の精神に基づいたモノづくり体制を確立するために、私は「職場ごとの垣根」を取り払う施策から始めました。具体的には、製造現場の各工程のリーダーを入れ替えることから始めました。かたや材料加工、もう一方は製品組立といった具合に、それぞれのセクションは、そもそも専門技能をもつ技術者の集団であり、プロとしての誇りが高い分、自分たち以外の存在を認めようとしないうところがありました。そこで、リーダーに自分たちの外の世界を体験してもらう



- 1.対談風景／2.第1工場全景／3.4.工場見学風景
- 5.モータコアのロボットによるノッチング工程／
- 6.最新鋭のマシニングセンター／7.ロータ製作にかかせない最新鋭装置「アルミダイキャストマシン」
- 8.精密モータの試験工程／9.職人技の精密加工工程／10.小型モーターの組み立て工程／
- 11.企業メッセージ



最前列左3人目から栗野取締役総務部長、文元取締役業務部長、菊竹社長、柴戸頭取、野中支店長(福岡銀行)、内田取締役製造部長

ことにしたのです。かなり勇気のいる決断ではありましたが、お互いに相手への理解が進んだ上、お互いの工程の大変さに気付くことで、工程間のコミュニケーションが大きく改善されました。

さらには、5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつづき)による職場の改善(維持)と多能工化への取り組みも並行して進めるなかで、目指すべきモノづくりの場が次第にできあがっていくのが、手に取るように感じられました。具体的には、部門ごとの繁忙期に休職者や退職者が出た場合にも、お互いが応援要員を出し合うことで残業を抑えられるだけでなく、職場の垣根を越えた一体感や結束力が醸成されています。

### 大胆な新規設備投資で 苦境を乗り越える

当社は、自社内で回転機を製造できる一貫生産ラインを構築しているのがセールスポイントですが、安価な海外製品の台頭によって、十年ほど前に事業の大幅縮小を覚悟しなければならぬ時期がありました。

この苦境を乗り越えられたのは、大規模な新規設備投資に踏み切ったからです。とはいえ、財政状態が苦しいなか、一カ月の売上高に匹敵

する規模の設備投資を決定するまでには紆余曲折を経ました。大きな後押しとなったのは、2012年度の補正予算による「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業費補助金」制度にタイミングよく応募できたことです。

国の助成金を受け取るのは想像以上に手続きが大変で、東京へ何度も足を運びましたし、書類の整備では北九州市をはじめとする行政の方々に丁寧にご指導をいただきました。私たちがからすれば自らの事業は日常的なものであっても、官庁側から見れば細かい技術面がわかりづらい専門分野の話です。部外者でもわかるように自社事業と独自技術をかみ砕いて伝えることの重要性を学んだ経験でした。

また、この時期は事業資金面で金融機関のお世話にもなり、支えていただきました。とくに当社事業の有用性を見込んで、根気よくサポートを続けてくださったメインバンクの福岡銀行には感謝しています。

## コスト管理の徹底により 過去最高売上高を記録

私が社長となった頃には、設備投資をする

ための資金もなく、多能工化や5Sを進めるための専門家も社内にはいない状況。赤字なので新規事業を開発するための余裕もなく、まさに「ないない尽くし」のスタートでした。ただここ数年で、当時に掲げた理想に多少なりとも近づいているのを実感します。

先に挙げた、改善のためのさまざまな施策が功を奏しているのと、社長就任当初から言い続けてきた「納期と品質で生き残る会社になるう」が実を結んだ結果といえるでしょう。結果的に、この十年で「失敗コスト」は4分の1程度にまで圧縮でき、2019年には過去最高となる売上高を記録しました。

その一方で、お金をかけるべきところには、しっかりと予算を割く姿勢もとってきたつもりです。1億円以上をかけて工場に冷暖房の空調設備を導入し、「コミュニケーション会費」として懇親会費用の一部を会社が負担する制度を設けています。今年の80周年記念行事はコロナ禍を考慮してほとんど取り止めましたが、秋にはせめて社員旅行を実施したいと考えているところです。「人間尊重」の精神を胸に、当社で働く一人ひとりの「主役」を大切にしながら、さらにレベルの高いモノづくりに邁進してまいります。

## ■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 柴戸 隆成



創業から80年と長い歴史の中で培った固有技術によりモータを中心とした回転機の製造を品質重視で続けておられます。製品の企画から製造、出荷までの一貫体制を確立されており、北九州の産業の発展に貢献してこられました。

また近年では環境問題・エネルギー問題への関心が高まっておりますが、省エネルギー製品や再生可能エネルギー分野へ適用される製品の開発に取り組まれています。

これからも次なる目標の100年企業と地元北九州の発展のために、更に飛躍されることを祈念しています。



 熊本銀行

高機能・高性能な木造住宅で、  
住む人の健康と地域環境を守る。

株式会社エバーフィールド

代表取締役社長  
くばら えいじ  
久原英司氏

取引店／熊本銀行 嘉島支店

#### ■会社概要

創業:2001年／設立:2002年／所在地:熊本市  
南区／資本金:2,000万円／従業員:16名(役員  
含む)／事業内容:建築工事業(住宅・商業施設・  
店舗全般)

会社ホームページは  
こちらからどうぞ!





EVER FIELD

本社前(左から久原社長、野村頭取)

## 工務店時代のお客様から 再開を請われ創業

せっかく注文住宅で建てたのに、「こんなはずじゃなかった」と、今ひとつ満足できなかったという苦い経験はありませんか。材質や間取りについての施主の考えや想いを、施工側の住宅会社がカタチにできないとこうしたことが起こってしまいます。

株式会社エバーフィールドは2001年に私が興した住宅会社で、私の苗字を社名にしています。松橋出身の私は、新卒で県内の工務店に8年間勤務し、そこで建築のイロハを学びつつ、大型工場の建設など多くのお客様の建築のお手伝いをさせていただきました。そうした経験も踏まえ、1996年から一旦建築の世界から離れ、輸入ボート販売とダイビングショップの経営に乗り出します。そこで海外製品の輸入について多くの経験を積みましたが、ときはバブル経済の崩壊後からの不景気のおおりの受けで転職を考えていた矢先に、以前工務店に勤務していた時のお客様から声が掛かりました。「もう一度建築をやってくれないか。」

お客様の声に誠心誠意お応えしたいと、再開した建築の仕事は、訪問営業や広告活動を

一切しなくとも今日まで順調に推移してきます。現在では長期優良住宅・ZEH<sup>ゼッチ</sup>(※1)以上の断熱基準を標準に、そしてLCCM<sup>エルシーエム</sup>(※2)住宅を目指しての住まいづくりのほか、幼稚園やサービス付き高齢者向け住宅等の施設、災害時の応急仮設住宅等で多数の施工実績を積んでいます。

(※1)ZEHとはネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略。創エネ×省エネ×断熱で、家のエネルギー収支をゼロ以下にする住まい

(※2)LCCMとはライフ・サイクルカーボン・マイナスの略。LCCM住宅とは、建設時、運用時、廃棄時においてできるだけ省CO<sub>2</sub>に取り組み、さらに太陽光発電などを利用した再生可能エネルギーの創出により、住宅建設時のCO<sub>2</sub>排出量も含めライフサイクルを通じてのCO<sub>2</sub>の収支をマイナスにする住まい

## 住む人の健康を考えた住宅づくり 長期優良住宅ZEH仕様が標準

当社の住まいづくりの特徴の一つは、躯体性能の標準化にあります。ハウスメーカーの多くが内外装や設備機器を標準仕様とし、グレードを上げるに従って金額も上がるシステムを採用しているのに対して、当社では躯体性能の長期優良住宅ZEH仕様(UA値0.5以下、R0値30%以上)、耐震等級3を標準とし、安心して長く快適に暮らすための住まいにこだわっています。



5



3 1



6



4 2





久原社長

### お客様の夢を実現するための ワンストップ体制

当社の住まいづくりのもう一つの特徴は、ワン

当社が建てた家に住まれる方から「病院に行く回数が減った」という声をよく聞きます。私は住まいの性能と住む人の健康との間には少なくない関係があると考えています。「ヒートショック現象」もそうですが、リビングとバスルームなど、部屋ごとに大きな温度差があると、血圧の乱高下や脈拍の変動を引き起こしてしまいます。そういうことが心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こすことにつながります。また、人が快適と感じる住まいの温湿度環境、つまり「温熱環境」を住まいづくりのはじめに整えておくことによって、健康被害のリスクから逃れることができるのです。

### 働きやすい環境の整備で 業界イメージも刷新

ストップ体制であることです。お客様が住まいづくりを当社にご依頼いただけますと、まずはじっくりとお客様のご要望を伺い、設計から積算、工事管理、メンテナンスにいたるまでのすべての工程を同じスタッフが窓口となって、お客様に寄り添い続けます。そのため、「営業担当に伝えた内容が、現場に伝わっていない」「出来上がったものが要望と違う」といった業界内でよく起こるトラブルは当社では起こることはありません。住まいづくりでワンストップ体制を確立するということは、スタッフ各自がそれだけマルチな動きをしなければならないということでもあります。分業制を敷く以前の工務店がそうであったように、当社もまたスタッフ全員がプロフェッショナルになることが求められるため、その成長を私はさまざまな取り組みで後押ししているところです。

その取り組みの一つが、頑張れば頑張った分だけ報酬が得られる仕組みづくりです。ほかにも週休二日制の完全実施、一週間連続のリフレッシュ休暇制度、産休明けの職場復帰支援など、



11 9



7

1.2.3.新築中の新社屋を見学／4.5.6.7.8.すまいの事例／9.10.熊本県阿蘇郡西原村の災害公営住宅／11.企業メッセージ



10



8



最前列左2人目から谷田専務、久原忍常務、久原英司社長、野村頭取、近藤支店長（熊本銀行）

このコロナ禍の中で働き方改革に同時に取り組んでいます。

また、社内会議のために現場を離れるといった無駄をなくすために、オンライン環境の整備も進めています。本社のすぐ近くに世界初の工法を用いた木材加工場を現在建設中です。ありがちな無機質の鉄骨構造ではなく、建築の可能性を感じさせるデザインと工法にすることで、スタッフのモチベーションの喚起と居心地の良さを追求しました。フリーアドレスとすることで、社内での打ち合わせも気軽にできる雰囲気づくりを目指しています。

こうした取り組みは、当社の改革というだけでなく、業界全体のイメージアップにつなげるための戦略と位置付けています。若い世代がこの業界に憧れ、いきいきと働いてキャリアアップできる職場環境をつくることも私の使命だと考えています。

### 顧客満足度を上げるため 大工を社員化

また当社では、お客様の満足度を引き上げるための取り組みとして、大工職人の社員化に取り組んでいます。ハウスメーカーや工務店の

多くは、大工職人を手間請けとして全体の工事費の中から割り当てを決めて、その範囲でやり繰りしてもらうことになり、追加工事が発生した場合でも、大工職人としては自分の割り当ての中で何とかしなければなりません。そうなるごんなに腕のたつ大工職人でもいい仕事はできません。大工職人にいい仕事をしてもらうためにも、安定した収入と環境を準備することが大事だと私は考え、社員化に取り組んでいるところです。

### 「至誠通天」が信条 損得ではなく正しいかどうか

2016年の熊本地震では、自らも被災しましたが、当社は熊本県の要請を受けて一般社団法人全国木造建設事業協会のもと、木造仮設住宅のほか、みんなの家(集会所、談話室)の建設に当たりました。

仮設住宅でも注文住宅でも人が住むことにはなんら変わりありません。短い期間でも健康で快適に暮らしていただくために、いただいた予算の内で高性能な家づくりを進めました。断熱性能にも省エネ性能にも優れた応急仮設住宅を多数建設した実績は、今後の災害に活か

せるものになったと確信しています。その証拠に令和2年7月豪雨水害でも、プレハブではない木造仮設住宅を提供しています。

豪雨水害の復旧時もそうですが、他社と協働するにあたって当社は自社の設計図面やノウハウを広く提供しています。当社の経営理念である「至誠通天」とは、「誠実な行いは必ず天に通じる」という意で、物事を損得でなく正しいかどうかで判断せよ、という孟子の教えです。「一人勝ちは一入負け」とも言い、自社だけが有利になるように行動することは、結果的にその業界全体を衰退させることにつながります。まずは裾野を広げて地元の企業と職人で取り組むことが大切だと考えています。

当社の住まいづくりは、今後、デザイン性と住まい方に優れた高性能住宅を進め、これまでゼネコンやハウスメーカー、建築家が手掛けていた高単価住宅分野に進出するほか、大型木造施設建設に特化した公共工事、非住宅工事に乗り組んでいます。

さらには、住宅、非住宅に限らず、わが国が目指す3階建て以下のすべての建築物を木質化することを行政に働きかけ、豊かな森林資源を活用した建築の拡大を目指し、その中で活躍できる企業になりたいと考えています。

## ■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳

エバーフィールド社の設立以来、前職での経験を活かしつつ、住む人が健康に過ごせるための高機能・高性能な住宅を建設することに全身全霊をかけてこられました。

2016年の熊本地震と、昨年の豪雨水害においては自ら被災される中でも、早期の災害復興のために、自治体や同業の企業・職人と協力して、被災者が健康に快適に暮らせる多くの災害公営住宅を提供されました。

これからも住む人の健康を第一に考えられた住まいの提供を、熊本から全国へと展開されていかれることを期待しています。





**JS** 十八親和銀行

太陽光発電からホテル事業まで。  
地域の発展と雇用創出を  
至上の使命として。

未来<sup>みらい</sup>エネルギー株式会社

代表取締役社長  
山<sup>やま</sup>新<sup>に</sup>田<sup>た</sup>友<sup>とも</sup>明<sup>あき</sup>氏

取引店／十八親和銀行 諫早支店

#### ■会社概要

創業:2012年／所在地:長崎県諫早市／資本金:  
3,000万円／従業員:24名／事業内容:太陽光  
発電事業、ホテル経営業／グループ会社:株式  
会社伸工舎(住宅事業・不動産事業・リフォーム  
工事・設備工事・エコライフ事業他)、株式会社  
小島工作所(内装工事・家具工事・建具工事・  
一般家具製作・図書館家具・住宅事業部)

会社ホームページは  
こちらからどうぞ!





SHIN-HOTEL前(左から山新田社長、森頭取)

## 大震災の報道映像に導かれた 再生可能エネルギー事業

「未来エネルギー」という社名が示すように、太陽光発電事業が当社の展開する事業領域の起点となっています。

会社設立のきっかけは、2011年3月の東日本大震災です。テレビに映し出された被災地の中継映像が目に見え込んできた時に「これはただごとではない」と激しい衝撃を受けました。私はここ諫早の出身ですが、5歳だった1957年に諫早大水害を経験しています。土石流に飲み込まれた町と大勢の犠牲者が出た惨状を、母親に手を引かれながら目の当たりにした体験は、強烈な記憶として幼かった私の脳裏に鮮明に焼き付きました。そして、その時の記憶が蘇るような、東日本大震災の被災地の様子を目にして、自分にできることは何かと、私は真剣に考え始めました。

当時は住宅販売の会社を経営しており、すぐに寄付を行ったのですが、もっと将来の社会に向けて役に立つ何かをと模索し、たどり着いた結論が既存の発電方法だけに頼らない、再生可能エネルギー事業でした。震災翌年の

2012年4月に新会社を設立し、その年の7月から再生可能エネルギー発電の固定価格買取制度が始まったのを受けて、いち早くメガソーラー事業をスタートさせました。

## ものづくりの会社との出会いで 経営に対する視点が変化

私の経営者としての大きな転機は、設立から5年後にあります。地域の木工所（小島工作所）で経営者が病に倒れ、「会社を引き継いでくれないか」という話が持ち込まれたのが始まりでした。聞けば、半世紀以上の歴史がある会社でしたので、絶対のこしていききたいと、私はすぐに申し出を引き受ける決心をしました。

実は、現在のグループ企業の一社で、私が代表を務める株式会社伸工舎も、ご縁があって1997年に先代から事業承継した会社（当時は有有限会社伸和設備工業）です。ところが、小島工作所の場合、家具製作作業をメインとしており、社員のほとんどが、木工を手がけるものづくりの職人です。先代社長も大学で建築学を学ばれた技術者のようでしたから、



2 1



3





山新田社長

非常に良質な仕事をされる一方で、労務管理や財務管理などの面で、課題を抱えている部分もあるように思えました。ものづくりにおける思いが強く、驚くほど真面目で勤勉な社員が多かったため、木工の魅力を伝える新商品開発や、技術を磨く努力を怠らなかつたりすると、自然と労働時間が長くなってしまつ、そんな環境だつたと思います。

私は、お金ではなく熱心にもものづくりに取り組む姿勢のひたむきさに心を打たれ、このままではいけない、という思いを強くしました。まずは、この人たちが安定した収入を手にして、安心して家庭を築き、この地で長く腰を据えて生活していける経済基盤を作らなければいけないと。

それに、これまで取り組んできた太陽光発電

事業では、環境に配慮しながら毎月の売上が確保できている一方で、人を育てる、雇用を創出するといった、企業が地域に貢献できる要素でなかなか存在価値を発揮できない課題を感じていました。地元の人々が働きやすい場、若い人たちが活き活きと活躍できる場がないと、町の発展に繋がらないと考えていましたので、この会社なら、目指していた活動に近づけるかもしれない、そんな思いを抱かせてくれました。小島工作所との出会いは、経営者としての新たな視点を私に授けてくれた出来事であつたともいえます。

### 伝統行事に参加して 社員同士の絆がより強固に

小島工作所の改革における第一歩は、私の挨拶でした。「創業家が大事にされたこの会社を預からせていただく気持ちです」と全員に伝えることで、先行きに不安を抱く社員たちになるべく穏やかな気持ちで仕事に励んでもらえるよう気を配りました。

ものづくりに取り組む人たちにとって重要なのは職場環境ですから、早い段階でその改善



8 6



7



4



5

1.対談風景／2.3.見学風景／4.松浦・福島太陽光発電所／5.SHIN-HOTELロビー／6.仲工舎外観／7.小島工作所外観／8.企業メッセージ



前列左から山口治道社長(株式会社小島工作所)、山新田友明社長、森頭取、安達支店長(十八親和銀行)

に着手し、それまでは作業中にお互いの肩をぶつけてしまいそうになるほどの狭い空間で働いていたので、安全で働きやすく、環境にも配慮した大型工場を新設しました。

作業場の新設は、社員の働きやすさと同時に、新設備の導入などによって作業効率や作業精度の向上を促すのがねらいで、文化財の補修や社寺建築の部材作成を手がけたことのある熟練工もいる分、オーダー家具などの高品質製品で売上を伸ばす足がかりにもなりました。

そして、私が改革のなかでもっとも力を入れたのが、組織としての一体感、チームワークの醸成です。経営を引き継いだ時点で、社員各自の職人としての誇りと自らの仕事に対する意欲には目を見張るものがありました。その反面、協力し補い合う体制によって組織として今よりも強い存在になれることに誰も気づいていませんでした。

そこで、私は施策として「ペーロン大会」への出場を考えました。長崎県南部の方はよくご存じかと思いますが、この競漕大会は木製の舟に数十名のメンバーが1チームとして乗り込み、往復1km以上の距離を漕いで競い合います。強豪チームが多く、新参チームがレースで

上位を獲得するのは至難の業。2017年にききつ船津ペーロン大会へ初出場した小島工作所チームも敗北を喫しました。しかし、参加メンバーたちの負けん気に火がついたように、毎年リベンジに燃えて出場し続けることとなり、結果的に連帯感が育まれ、職場にさらなる活気が生まれました。

### ホテル事業は目先の利益より地域の今後50年を見据えて

最近の当社におけるトピックは今年3月、J R 諫早駅に直結したホテル「SHIN HOTEL」の開業です。

諫早駅エリアの大規模な再開発の目玉として、また、新たなランドマークとして計画されたホテルですが、公募に対して採算面が課題となり、事業計画が見直されるなか、紹介によつて当社にお話をいただくことになり、諫早の発展に貢献できるならと手を挙げました。無事に受託できたものの、ホテル経営に関して素人で、当然知見もなかったのですが、銀行からのサポートや専門家の助言に支えられてここまで来ることができました。

また、当プロジェクトは、グループ企業個々の独自性と長所を活かしながら、グループのシナジー効果を発揮できる貴重な経験にもなりました。全体の進行を受け持った当社をサポートすべく、小島工作所が内装デザインや内装仕上げを担当。オーダー家具製作などで培ってきた技術力を駆使してランドマークにふさわしい空間を作り上げています。伸工舎も設備機器設置で手腕を発揮。新規参入した分野でグループ全体の存在感を示せたと同時に、「自分たちの町のシンボルとなる建物を造る」仕事は、関わった社員全員が誇りを手にできる経験となりました。

そういった意味で、当事業そのものが当社にとって貴重な財産となる経験。コロナ禍でもあり、初年度から利益が出なかったとしても想定範囲内です。ホテルの建物は少なくとも半世紀はのこりますので、今後の50年間の地域振興と雇用創出に繋がればそれでいいと、長期的な視点で捉えています。当然、他にも地域のためになることであれば引き受けたいと考えています。人との出会いに恵まれてきた人生ですので、人を豊かにする事業でこれからも恩返ししていきたいと思えます。

## ■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 森 拓二郎



早い段階から長崎におけるメガソーラー事業に参入され、地球環境に対して負荷の少ない自然界のエネルギーである再生可能エネルギーへの取り組みを行っておられます。

また、事業承継の問題を抱えた地元企業2社の経営を引き継ぎ、直近では諫早駅周辺地区の再開発に携わってホテル運営も開始されました。これからも引き続き、諫早市および長崎県全体の発展と雇用の機会創出に寄与されることを願っています。